

【機関情報】

社会教育



福島県地域家庭教育推進協議会



家庭教育支援チームスキルアップ研修



CONTENTS

- ◆ 特集 1
「地域でつながる家庭教育応援事業」
- ◆ 論説 4
つながり合う家庭教育支援
— 愛着を社会全体で支える「福島型家庭教育支援モデル」の推進 —
福島県地域家庭教育推進協議会 会長
福島県家庭教育支援アドバイザー
福島大学地域未来デザインセンター
客員教授 本多 環 氏
- ◆ 輝け！社会教育 5
菊地 正孝 氏（湯川村）
神山 敬章 氏（埼玉県朝霞市）
川俣町中央公民館
田島小学校父母と教師の会
いわき市立内郷第一中学校「父母と教師の会」
福島県立視覚支援学校・福島県立聴覚支援学校福島校父母と教師の会
学校法人佐藤学園 開南幼稚園（郡山市）
矢祭町立矢祭小学校
郡山市立桜小学校
福島市立蓬萊東小学校
富岡町図書館
読み聞かせ会「あのね」（古殿町）
福島県郡山市家庭教育支援チーム 郡山家庭教育を支援する会
- ◆ 令和7年度 社会教育関係各種表彰受賞者 12
令和8年度 福島県社会教育施設行事予定 12

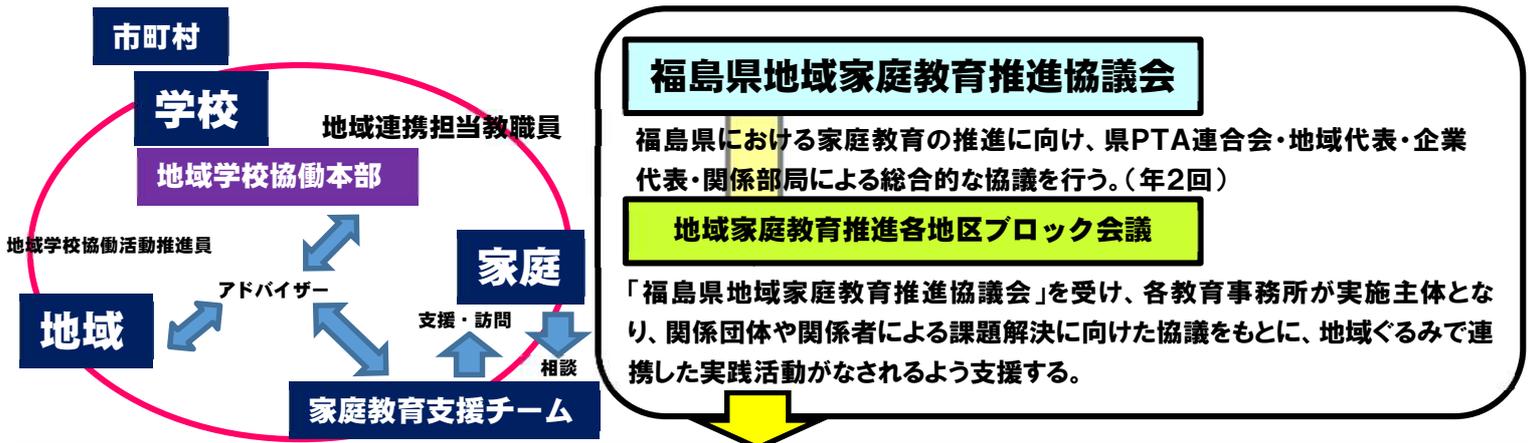
特集「地域でつながる家庭教育応援事業」

特集では、県の取り組みである「地域でつながる家庭教育応援事業」について御紹介いたします。

県では、子育てに不安や悩みを抱える家庭に支援が届くよう、アウトリーチ型による相談対応等に取り組む「家庭教育支援チーム」の登録を促し、県全域に支援体制の整備を進めています。

また、「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会を提供したり、企業と連携し、地域の家庭教育を推進したりしています。

さらに、学校や地域、行政機関や福祉機関と連携しながら、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう、家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を行っています。



(1) 家庭教育応援プロジェクト

ア 家庭教育応援企業推進活動
 企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。
 ☆家庭教育の推進に関する取り組みを実施する企業を募集する。
 ☆家庭教育応援企業に、認証書を配付する。
 ☆企業における家庭教育の推進を支援する。
 ・早寝早起き朝ご飯運動
 ・家庭教育についての学習会を開催(3モデル)
 ・資料の提供、講師の派遣
 ・単独・複数開催へ向けた情報提供

イ 親子の学び応援講座
 幼稚園や小学校等における家庭教育の推進に向け、各地区の連合PTAに対し、親の学びを支援する。
 ☆連合PTA 7PTA(県内7地区×1団体)
 ☆講座内容 家庭教育に関する内容
 ☆県の支援 親子講座の開催に必要な事務手続き等の支援
 資料の提供、講師の派遣
 PTA単独開催へ向けた情報提供 等

(2) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 福島県家庭教育支援チーム
 不安や悩みを抱えている家庭(特に、支援が届きにくい家庭への支援が中心)を対象に、地域において主体的に家庭教育支援の取り組みを行う「福島県家庭教育支援チーム」を登録する。
 ☆チームを新たにつくる、または既存の組織をもとにつくり、申請後登録。
 ☆個々の家庭に応じた家庭教育支援
 構成員(例)元PTA、民生委員、児童委員、SC、SSW、保健師等
 ☆地域学校協働本部事業との関連
 ☆関係団体や関係機関等との連携

イ 家庭教育支援チームスキルアップ研修
 県内の家庭教育支援チームの実践発表をもとにした意見交換や講師を招いての研修等をもとに、支援が届きにくい家庭への支援(アウトリーチ型支援)について理解を深め、チーム同士がつながり合い、互いに実践力を高められるよう、登録チームの活動を支援する。
 ☆年に2回実施する。
 ☆対象：家庭教育支援チーム、家庭教育支援団体等

ウ 家庭教育支援団体
 県登録はしていないが、各地域で自主的に家庭教育支援に取り組んでいる団体

エ 家庭教育支援者育成地区別研修
 各教育事務所が県や地域の課題解決に向けた研修を行う。
 ☆推進協議会やブロック会議を受け、県や地域の課題解決に向けた研修を行う。
 ☆家庭教育支援者が各地区の研修に参加できるようにすることで、研修の機会を充実させる。

福島県家庭教育支援アドバイザー

- ★支援チーム支援
- ★支援者養成・育成
- ★各地区研修支援
- ★学校・家庭・地域との連携支援

福島県家庭教育支援チームの取り組みについて

～関係各所との効果的な連携について～

家庭教育支援チームとは、身近な地域での様々な取り組みや講座等の学習機会の提供や親子で参加する行事の実施、子育てや家庭教育に関する相談対応や地域の情報等の提供を行っています。状況に応じて、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携・協働しながら、子育てや家庭教育を支援しています。今回の特集では、関係各所との効果的な連携を行うチームの一部を紹介します。

企業等との連携

ポレポレ (NPO 法人 Mother Tree)

家庭教育支援チーム「ポレポレ」は、NPO 法人 MotherTree が運営しています。MotherTree は、地域の子育て課題に向き合いながら、妊娠・出産・育児期に孤立する家庭がない社会を目指しています。アウトリーチ型の「さんさんサポート」では、家事・育児の支援を各家庭に届けます。居場所事業「ポレポレねうぼらふくしま」では、小規模でアットホームなサロンを開き、気軽に立ち寄れて相談できる場を整えています。あわせて「ポジティブ・ディシプリン®プログラム」等により、子育てを学ぶ機会も提供しています。

企業等との連携では、エステ等を営む方々が「癒し隊」として参加し、スタッフがサロンで子どもを見守る間、別室でアロマトリートメント等を提供して母親のリフレッシュを支えています。また、住宅展示場の定休日を会場としてお借りしサロン

を開催するほか、駐車場のない家庭への訪問時に企業の駐車場をお借りするなど、地域のインフラを活用して「必要な方に支援を届ける」仕組みづくりを進めています。

今後は「支援や制度のすき間の支援」を大切にしながら、「1人じゃないけど1人にもなれる」レスパイトケア（産後ケア）の準備を進め、産休・育休中の職員への情報提供や従業員向け家庭教育講座の共催など、相互に価値が生まれる連携を広げていきたいと考えています。



行政機関との連携

明日飛子ども自立の里

不登校・ひきこもり・ニート・フリーターなど、さまざまな悩みを抱える若者を対象に、相談や情報共有、自立・就労支援活動を行っています。

地域若者サポートステーション（厚生労働省受託）では、就労に一步踏み出せない若者への個別支援を実施し、個別支援教育サポート事業（県教育庁受託）では、高校内に居場所を設け、安心して過ごせる環境づくりに努めています。

また、みんなの居場所づくり事業や学習環境整備事業（いわき市保健福祉課受託）では、自宅以外の安心できる場の提供や、困窮世帯の中学生への自宅訪問による学習・生活支援も行っています。さらに、独自事業として、食事に困る子どもや孤立する高齢者に手づくり弁当 100 食を投げ銭方式で届ける地域食堂を開催し、若者がスタッフとして参加することで自立の機会を得られる場も設

けています。これらの事業を通じて、行政や地域の関係機関と連携し、情報共有や相互理解、顔の見える関係づくりを大切にしています。

また、保護者への相談支援や学びの機会も提供し、家庭での関わり方や子育てについて共に考える「家庭教育」の場としても機能しています。

今後も地域社会と協力しながら、子どもや若者が自分らしく成長できるよう、きめ細やかな支援を続けていきます。



双葉郡において、子ども・子育て応援を通じた地域づくりに取り組んでいます。スタッフも子育てに奮闘中であり、暮らしの中の困り事や気づきを大切にしています。サロン事業のほか、情報誌の発行やWEBサイトでの発信を通じ、点在する地域のニーズを拾い上げながら、ともに支え合うネットワークづくりを行っています。

活動で大切にしているのは、地域の声から今何が必要かを考え、多様な主体と手を取り合うことです。2023年度に実施した調査では、移住・帰還層の「孤立感」や、学びの機会の約8割を地域外に依存している実態が浮き彫りとなりました。この結果を受け、単独で支援を完結せず、地域団体と連携したサロン/子ども食堂等の展開を通じ、地域住民や保護者が主役となる「応援の輪」を広げています。一対一の支援を超えて子育て

援に関わる人が自然と増える家庭教育支援を届けることで、地域全体で子どもを育む土壌づくりを目指しています。

今後は、これまでの民間連携を土台とし、行政や地域住民との繋がりも一層深めていきたいと考えています。コトハナが地域の声を橋渡しする役割を果たすことで、「この地域で暮らす子どもの育ちを共に考え、応援し合う仲間」を増やしていきたいと考えています。



特定非営利活動法人ミナクル

特定非営利活動法人ミナクルは、「皆来る（集う）」、「ミラクル（奇跡）をおこす」という願いのもと、子どもと保護者が安心して成長・子育てできる地域づくりを目指して、家庭教育支援や子どもの居場所づくり、学習支援などに取り組んでいます。地域で「タコおじちゃん」と親しまれている代表者と、その思いに賛同して集まったボランティアが、それぞれのできることを持ち寄り、温かく気軽に参加できる場づくりを大切にしています。また、公的機関だけでは対応が難しい複雑な事情や心情を抱えた家庭に対しても、丁寧に話を伺いながら、枠にとらわれない形で支援の在り方を共に考えていくことを特色としています。

文部科学省の家庭教育支援チームの一員として、学校や教育事務所、自治体、社会福祉協議会、子ども食堂ネットワーク等と連携し、子ども食堂・学習支援教室・子ども向けワークショップを行い、その合間にお母さんが一息つける交流の場も設けています。食料支援は、ソーシャルワーカーや教育事務所、会津ファミリーサポートからの紹介を

受けた、本当に困っている世帯を対象としており、住居の手配や生活の立て直しについて関係機関と連携した支援も行っています。また、運営場所の二階、アパートを活用し、家族間の衝突時に子どもと両親が冷静に関係を見つめ直せる子ども合宿を実施し、離婚や不登校、いじめ等に関する悩みにも寄り添っています。さらに、会津地域の鶴我グループや山空林業、歌川工務店、正雲寺など、地域の事業者や寺院・住民から物心両面の支援を受け、継続的な活動が支えられています。

今後も、こうしたつながりを深めながら、江戸時代の長屋のように法律上の家族の枠を超えて大人と子どもが対等な関係性を保てる場を育み、地域を愛する若者の育成を目指してまいります。





つながり合う家庭教育支援

— 愛着を社会全体で支える「福島型家庭教育支援モデル」の推進 —

福島県地域家庭教育推進協議会 会長

福島県家庭教育支援アドバイザー

福島大学地域未来デザインセンター 客員教授

本多 環 氏



未曾有の複合災害と言われた東日本大震災から15年。見慣れた風景や繰り返される日常、安心できる人間関係を未だ取り戻すことができない家族は少なくありません。

「福島復興」は東京五輪招致における国際公約として掲げられ、県内では目に見える成果とスピードを重視した「復旧」「復興」「創生」事業が進められてきました。その結果、物理的環境は街の風景を変えるほど改善しました。しかし、住民の心の安らぎや暮らしの連続性、地域への愛着は十分に回復したとは言い難い状況です。とりわけ「学校環境」「家庭環境」「地域環境」の変化により大きな不安やストレスを抱え続けた子育て世代や子どもたちは、災害によって奪われた「安全感」「安心感」「信頼感」を取り戻すことに苦戦しています。これらの感情は緩やかに形成されるため、長期的に取り組むべき課題となります。

福島の家庭教育支援において重視すべきは、「愛着の回復」です。「愛着」は養育者と子どもの情緒的つながりとして捉えられがちですが、安心して話せる場所があり、話を聞いてくれる人がいるという社会的環境により、養育者が支えられてこそ培うことができます。立派な施設や短期的事業を立ち上げればよいというものではなく、名前を呼び合い、対話を通して理解し合い、時間が経っても再びつながりあうことができる関係性の連続によって育つ感覚です。失敗や揺らぎを抱えたままでも関わり続けられる「人」と「場所」があれば、失ったものを埋め直してみようという学習意欲も湧いてくるでしょう。見えにくく、数値化しにくく、時間のかかる営みですが、地域ぐるみで親子の愛着形成を支えることは、真の復興にもつながると考えます。

現在、社会教育課では「福島型家庭教育支援」を推進しています。様々な課題を抱えながらも支援を求めること自体にためらいを抱える家庭が多いため、本課ではアウトリーチ型支援に積極的に取り組んでいます。それをきっかけとして養育者や子どもとつながることができれば、安心して子育てをするためにはどうすればよいかを共に考え、必要に応じて関係機関や専門機関と連携を図ります。また、価値観の多様化により家族観や子育て観も多様化していますが、評価や選別をすることなく、それぞれの家族が安心して子育てができるような学びの機会の提供を目指しています。家庭教育支援チームだけでなく地域の人たちがつながり合う福島型家庭教育支援により、誰一人として取り残さない福島となることを願います。

※ アウトリーチ型支援＝保護者や子どもの居場所に出向いて届ける支援

プロフィール ほんだ たまき

1981年 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎卒業

1985年 宮城教育大学卒業

1998年 福島大学大学院教育学研究科修了

大学卒業後、私立中・高等学校や福島県内の公立小学校に勤務。小学校勤務時には、「困り感」を抱えた子どもや保護者をきめ細やかに支援するための少人数支援室「ほっとルーム」を校内に設置。不登校や登校しぶりの子どもたちへの支援だけでなく、予防・開発的支援に取り組む。

2012年より、福島大学つくしまふくしま未来支援センターこども支援部門に所属。震災により「困り感」を抱えた子どもや保護者を対象に、課題解決的支援を実施する。また、子どもたちが抱える「困り感」が多様であり、包括的な支援が必要であることを痛感し、教育・医療・福祉等の枠組みを超えた相談支援室を開設する。

現在は、数多くの子どもや保護者への相談支援を通して「支援知」を生かしながら、教育的心理的支援を融合的に行う「Room Leaf」を開室。



輝け！ 社会教育

令和7年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

湯川村社会教育委員 委員長 菊地 正孝 氏（湯川村）

この度は、社会教育功労者文部科学大臣表彰をいただき、誠にありがとうございました。

私は、平成15年に湯川村社会教育委員を拝命いたしました。当初は、その責務を十分に理解していた訳ではありませんでしたが、社会教育活動を通して、地域づくりに貢献していこうと決意し、取り組んで参りました。

少子高齢化が進む今日、公民館活動を通じた社会教育の重要性をさらに感じているところでございます。地域・学校・公民館の連携を通し、多くの地域の方々との交流を図る中で、「人生の大先輩であるお年寄りを地域で見守っていこう」「シニア世代が充実した人生を送るための生きがいをつくろう」「未来の宝である子どもたちを地域で育てていこう」という思いを胸に、地域の一員として

行動できるようになりました。

今日、我が国を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。人々の絆や地域コミュニティの在り方が問われている今だからこそ、人と人とを結び社会教育の役割は、益々重要になると確信をしています。今回の受賞を機に決意を新たにし、より一層の向上心をもって、地域の皆様と共に活動して参ります。行動する社会教育委員として心豊かな地域社会の発展の為、一層精進していく決意です。この度は、誠にありがとうございました。



令和7年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

前 いわき市社会教育委員会 議長 神山 敬章 氏（埼玉県朝霞市）

この度、令和7年度社会教育功労者文部科学大臣表彰の栄に浴し誠に身に余る光栄であります。

この受賞は地域における社会教育活動を推進するため、多年にわたる社会教育振興に寄与した者への功績をたたえるものと認識していますが、この功績は私一人のものでなく、今まで支えていただいた、いわき市教育委員会、福島県教育委員会をはじめとする教育関係機関、各種委員会各位のおかげによるものであります。改めて皆様に感謝御礼申し上げる次第であります。

顧みすれば、大学時代に社会学に出会い、大学院で教育社会学を専攻研究し、今日の教育活動につながるのですが、研究を進めるうちに社会教育、生涯学習にシフトを移し今日に至ります。

1987年に開学のいわき明星大学に東京の明星大学から赴任し、いわきに在住し、いわき市の各種委員会の委員を大学従事の傍ら関わってきました。中でも、社会教育委員は2000年より就いており、その間、市社会教育委員会議長、県市町村社会教育委員連絡協議会会長を歴任、現在も全国社会教育委員連合副会長として務めております。まさに皆様のおかげであります。今後とも体が許す限り社会教育推進のため社会貢献する所存であります。





第78回優良公民館文部科学大臣表彰

川俣町中央公民館

川俣町中央公民館は、昭和56年の開館以来、町の中心部に位置する社会教育の拠点として、多くの町民に親しまれながら、学びと交流の場づくりに取り組んできました。

少子高齢化が進み、参加者の固定化や減少といった課題がある中においても、「川俣町ならではの」特色を生かした取り組みを大切にしています。日本最大級の中南米音楽の祭典「コスキン・エン・ハポン」の開催をはじめ、ケーナ講座や学校でのケーナ教室等を通じて、文化の継承と人材育成を進めています。

また、高齢者学級「白寿大学」では、防災・健康・地域貢献など生活に直結した学びを提供し、受講生の主体的な活動につなげています。文化財講座では、町内の遺跡や史跡を題材に、地域の魅

力を再発見する機会を創出しています。さらに、地域学校協働事業では、地域人材と学校を結び、郷土愛の醸成と学習環境の充実を図っています。これらの活動は、多くの町民や関係者との連携・協働によって支えられてきました。

今後もスローガンである「これからも“学び”続けよう」のもと、公民館が地域における学びの循環を生み出す場となるよう、試行錯誤を重ねながら社会教育活動を継続していきます。地域の声に耳を傾け、誰もが活躍できる学びの場を目指していきます。



令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰

田島小学校父母と教師の会

コロナ禍明け、従来のPTA活動が思うように行えず、戸惑ったPTAが多かったのではないのでしょうか。保護者同士のつながりの希薄さは会の活動の停滞につながっていました。本会では30数年「保護者の集い」と称し、保護者の運動会を実施してきました。この取り組みが認められ、「功績顕著な社会教育団体」の表彰を受けた経緯があります。しかし、コロナ禍で5年間実施できず、未経験の保護者の増加もあり、集いの実施に消極的になっていました。そこで、改めて会の目的である「子どもたちの健やかな成長」に向け、保護者間に「和」をもたせるため、役員が中心となり復活させました。当日は、笑顔いっぱいの保護者と子どもたちが集い、最高の時間を共有しました。

子育てにはこの「笑顔」が欠かせません。しかし、最近では「子育て＝大変（マイナス）」といった

報道が多く、これらの情報と常に接している現在の子供たちが将来望んで子育てをすることは考えにくいです。そこで、もっと子育てのプラス面（楽しさ）を発信することが大切であると考えました。このことは少子化対策にも直結すると考え、保護者も子どもも笑顔になる、子育てについてまとめたPTA通信「絆」を発行しています。

会員数の減少への対応として組織を改編するなど、よりPTA活動が活気あふれるよう創意工夫し、文部科学大臣表彰の名に恥じぬよう努めています。





輝け！ 社会教育

令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰

いわき市立内郷第一中学校「父母と教師の会」

この度は「優良PTA文部科学大臣表彰」という大変光栄な賞を受賞させていただき、ありがとうございます。この度の受賞は、わたしたちだけでなく歴代PTAをはじめ保護者、内郷地区、教職員の皆様のご理解とご協力の賜です。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

さて、本市はかつて炭鉱で栄えた街で、本校は常磐炭礦内郷礦住吉本坑の跡に建てられ、今でも敷地内に住吉本坑の遺構があります。「一山一家：ひとつの山はひとつの家族」という、炭鉱ならではの思いを大切にされてきました。

そのような中、保護者の意見、要望を踏まえた共通理解・実践に一枚岩となって取り組んできました。また、方部PTAと連携し、教育講演会等

を合同で開催して共に学ぶ機会を作っております。

さらに、数多くの卒業生で構成している同窓会と連携して、地域が一体となって子どもたちの成長を見守っています。今後も先人への感謝を忘れず、学校の教育活動を支えていきたいと思っております。



令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰

福島県立視覚支援学校・福島県立聴覚支援学校福島校父母と教師の会

この度は、「優良PTA文部科学大臣表彰」という栄えある賞をいただき、誠にありがとうございます。本PTAでは、隣接する視覚支援学校及び聴覚支援学校福島校の2校が共に資源回収や奉仕作業などの活動に取り組んでいます。

また、聴覚支援学校福島校保護者の会を、通称「きすなの会」とし、保護者主催で手話学習会や手話劇を開催しています。手話学習会は、保護者の学び合いの場として実施しています。

外部にも公開しているので、視覚支援学校の保護者や地域の方も参加しています。手話劇の実施にあたっては、共働き家庭の負担を考慮し、参加希望者を募って開催しています。加えて、地域の聴覚障がい者の方や聴覚障がい児の子育てサークルのスタッフ、卒業生の保護者など、様々な方

にもご協力をいただいております。

今年度はイソップ寓話「金のおの、銀のおの」を演じました。主人公の木こりに加えてユーチューバーやデフリンピック選手なども登場させ、ユーモアを交えて子どもたちに「正直であることの大切さ」を伝えました。今後もいただいた賞を励みに、学校、保護者同士、地域や関係の方々と手を取り合って、子どもたちへの支援の充実に努めたいと思っております。





輝け！ 社会教育

令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰
学校法人佐藤学園 開南幼稚園 (郡山市)

【本に親しむ機会の充実】

豊かな環境の中で、遊びを中心とした子どもの主体性を大切にする保育を行っています。その遊び中の一つに読書活動もあります。園内に図書館があり司書職員がいて、子どもたちが自由に絵本や図鑑を楽しめるよう環境を整えています。遊びの中で発見した虫や植物などを図鑑で調べ、さらに興味を深められるようサポートしています。また、あるテーマの本を読んだらスタンプを押す「チャレンジカード」を使って、楽しみながら幅広いジャンルの本に親しめるよう工夫しています。

【お話し会】

民話の語り部さんや、保護者の読み聞かせボランティアのお話し会などを通して、みんなで一つのお話を楽しむ機会を作っています。

【絵本の貸し出し】

毎週末、子どもが自分の読みたい本を選び、家庭に持ち帰り、保護者と一緒に楽しんでもらっています。

【成果】

子ども自身が“やりたい”“読みたい”と思って行動できるような環境を整えることによって、子ども同士の刺激になっています。また、子どもたちの興味のあるものと絵本を結び付け、遊びや劇ごっこに発展させており、絵本を中心に園児・保育者・保護者の信頼関係を築くことができています。



令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰
矢祭町立矢祭小学校

本校は平成28年に町内5つの小学校が統合し、矢祭小学校として開校しました。地域の関係団体や図書館、教育委員会との連携を密にしながら、子どもたちの読書活動を推進しております。

取り組みの柱として挙げられるのが、全国に先駆け矢祭町でスタートした「子ども司書講座」(平成21年度)です。本校では、その成果をさらに広げるため、「矢祭もったいない図書館」と連携し、令和5年度からは2年生以上の教育課程に「子ども司書講座」を位置付け、現在では全学年での取り組みとなっています。

絵本作家などによる講演や読み聞かせ、絵本づくりやピブリオバトルの体験などを通して、楽しみながら読書に親しむ活動を展開しています。全講座を受講した卒業生は「子ども司書」として認定される仕組みとなっており、子どもたちの励み

にもなっています。

また、その他にも、地域の読み聞かせボランティア「手のひらの会」や図書委員会、教職員による「読み聞かせ」や「朝読書」の推進、もったいない図書館との連携による移動図書館の「キャラバンカー」や、読書の足跡を残す「読書通帳」の活用、「多読賞」の表彰や「読書アプリ」の活用などにより、地域と連携しながら6年間を通した読書活動の推進に努めています。





輝け！ 社会教育

令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰 郡山市立桜小学校

本校は、平成18年に続き、このたび2度目となる同賞を受賞しました。このことを教職員一同とても光栄に思っています。また、約20年の時を経て再びこの栄誉に浴しましたことは、これまで本校に在職してきた多くの教職員の皆様が、子どもたちの読書活動を大切に、図書室文化を脈々と受け継いでこられた成果であると深く感じています。

平成30年に行われた校舎長寿命化事業工事により、図書室は、読書スペースと学習スペースを備えた、利便性と快適性に優れた空間へと生まれ変わりました。約201平方メートル(約121畳)の広さの中に、畳コーナーやベンチ、テーブルを配置した図書室は、目的に応じた多様な学びや読書が可能となっており、様々な用途で活用さ

れています。今年度も、図書委員会による読み聞かせや読書祭り、読書マラソン、図鑑や百科事典を活用した夢っ子クイズ、絵本探し、読書郵便、ボランティアによる読み聞かせといった各種イベントを行い、図書室が日常的に親しまれる場所となる工夫を重ねてきました。

これからも、子どもたちが豊かな想像の世界を楽しみ、心を潤す体験が得られるようにするために、本校図書室から発信する読書活動の取り組みを未来へとつないでいきたいと思っています。



令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰 福島市立蓬萊東小学校

本校は、創立45周年を迎える比較的新しい学校です。学校経営の重点事項として「読書活動の推進」を位置付け、本に親しむ児童の育成に取り組んでいます。

空き教室を利用した2つの図書室があります。調べ物に適した本が置いてあり、学習センターの機能をもたせた「第1図書室」と、子どもたちに人気のある本を集めてある「第2図書室」に分けています。

年間を通した読書啓発の取り組みとしては、福島市の共通実践である「読書オリンピック」を核として、「読書マラソン」「読書ハードル」などの読書イベントに取り組んでいます。その他にも、「ペア読書」「しおりコンテスト」「ジグソーパズル」などの独自イベントも行っています。

年間を通して司書教諭と司書が、子どもが手に

取りやすい図書室経営を心がけています。年度当初には、学年の発達段階に応じた図書指導を行います。週1回の朝読書も行っています。休み時間には、オープンが待ちきれない子どもたちが列をなし、図書室が狭く感じるほど混雑しています。

また、地元の読み聞かせボランティアのご協力を得て、年間を通した読み聞かせを行っていただいています。

これからも児童の読書環境を整備し、読書に親しむ経験を大切にしていきたいと思ひます。





輝け! 社会教育

令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰 富岡町図書館

富岡町は2011年3月11日の東日本大震災・福島第一原子力発電所事故により全町避難となり、それまで地域住民に親しまれてきた富岡町図書館は、休館を余儀なくされました。しかし、同年5月には郡山市ビッグパレットの避難所内に図書室を開設し、9月の避難所解散に伴う閉室までの間、延べ667名に利用いただき1,153冊の貸出がありました。2012年度からは図書館事業を休止し、その後富岡町図書館再開館の準備に入るまで汚破損資料の救済や資料の更新はできない状態でした。

2018年4月からは、共に地元で再開した小中学校に資料を常設したり、職員を派遣したりする等、学校図書館の支援にも力を入れると共に様々な活動を行いました。また、待っているだけでは

図書館の再開が周知されないと思い、たくさんの協力を得て園児や児童への出前おはなし会や移動図書館事業を実施する等、少しずつ活動の場を広げていきました。図書館情報紙『メガホン』では図書館だけではなく、町内事業者に協力を得た特集記事を作成する等、町の情報発信も行っております。

このような活動が評価され文部科学大臣賞を受賞いたしました。改めて、関係各位、活動にご協力いただいている皆さまに感謝申し上げます。今後も本の楽しさを伝え、地域に貢献できるよう職員一同努めていきたいと思っております。



令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰 読み聞かせ会「あのね」(古殿町)

古殿町主催の読み聞かせ講習会に参加したのをきっかけに、参加者数名で就学前のお子さん向けに読み聞かせを開始。2005年に読み聞かせ会「あのね」を設立し、小学校をはじめデイサービスセンターや地域の集会、町外等でも読み聞かせのボランティアを行っております。現在の会員は11名です。

古殿小学校で、朝の読書タイムの時間に年16回(延べ36学級)読み聞かせを実施し、絵本や紙芝居、パネルシアター、ペープサートなど、子どもの興味・関心を高める工夫をしています。

2014年から町内各地に伝わる伝説や民話を掘り起こし、紙芝居にして伝える活動を開始しました。2015年には、古殿中学校美術部の生徒と紙芝居を共同制作。2016年からは「お話の絵コンクール」を開催し、古殿小学校の児童が描いた

絵を基に紙芝居を制作する活動を開始しました。これまで「お話の絵コンクール」から制作した紙芝居10作品を含め、合計15作品を紙芝居化し、そのうち10作品を絵本にしました。絵本は、紙芝居制作にかかわってくれた古殿小学校の児童全員に配布しています。

「民話は一番身近な文化遺産」です。古殿町に伝わる紙芝居は親子共通の話題となって、町への郷土愛を育む一環となっています。

また「大人の紙芝居会」を開催し、町民の皆様にも町内各地の紙芝居を広く伝える活動を行っています。





輝け！ 社会教育

令和7年度家庭教育支援チーム文部科学大臣表彰

福島県郡山市家庭教育支援チーム 郡山家庭教育を支援する会

◇ 創設45年の歴史に華

本会は郡山市の家庭教育の充実に寄与することを目的に昭和57年に発足してから、来年45年目を迎えます。家庭教育に関する理論的・実践的な研究を行い、教育相談、講話、家庭教育支援などを行っています。会員は現在32名の教員経験者で構成されており、その経験を活かし、子どもを思う保護者の気持ちに寄り添いながら地道な活動を続けてきました。

◇ 経験を活かし社会貢献

主な活動は、市生涯学習課と連携し、小学校入学を迎える子どもをもつ保護者に向けての「就学前子育て講座」や「家庭教育合同学習会」での助言を行っています。また、「生涯学習きらめきバンク」に登録し、要請に応じた出前講座に赴くと

共に、本会主催の出前講座を年間2回実施し、一般の方との教育相談の機会を設けています。広報誌「心豊かに」を発行し、関係各所に配布し、子育て事例などの紹介もしています。

◇ 持続可能な活動を目指して

今後も新しい時代を担う子どもたちの健やかな成長のために望ましい家庭教育のあり方について、新しい情報と知識を得ながら、保護者・市民への発信や支援を続けてまいります。



「写真館」令和7年度の社会教育関係事業の様子を掲載します。



チャレンジ！子どもが心みだす体験活動応援事業成果発表会



ふくしまを十七字で奏でよう表彰式



語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」



東北大学社会教育主事講習福島県事前研修会



地域学校協働活動事業推進フォーラム

令和7年度 社会教育関係各種表彰受賞者

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	菊地 正孝 氏 (湯川村) 神山 敬章 氏 (埼玉県朝霞市)	2月6日	文部科学大臣
優良公民館	川俣町中央公民館 (県北)	2月6日	
「家庭教育支援チーム」の活動の推進	福島県郡山市家庭教育支援チーム 郡山家庭教育を支援する会 (郡山市)	2月6日	
優良PTA	田島小学校父母と教師の会 (南会津町) いわき市立内郷第一中学校「父母と教師の会」(いわき市) 福島県立視覚支援学校・福島県立聴覚支援学校福島校父母と教師の会 (福島市)	2月6日	
子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)	【園】学校法人佐藤学園 開南幼稚園 (郡山市) 【学 校】矢祭町立矢祭小学校 【学 校】郡山市立桜小学校 【学 校】福島市立蓬萊東小学校 【図書館】富岡町図書館 【団 体】読み聞かせ会「あのね」(古殿町)	4月23日	
社会教育功労者	(前)福島県立美術館友の会 会長 丹治 孝子 氏 (福島市) 喜多方市社会教育委員の会議 議長 伊藤 尊仁 氏 (喜多方市) 絆づくりの会 会長 木村 真由美 氏 (南会津町) 新地町社会教育委員 委員長 大須賀 昇 氏 (新地町)	11月14日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【施設】大玉村立大玉公民館 (県北) 郡山市立喜久田公民館 (県中) 郡山市立田村公民館 (県中)		
全国社会教育委員連合	横田 貞子 氏 (小野町) 大須賀 昇 氏 (新地町)	10月30日	(一社)全国社会教育委員連合
日本PTA全国協議会	【団体】 いわき市立小名浜東小学校PTA 郡山市立桜小学校父母と先生の会 【個人】 ※ 福島県PTA連合会の役職名 出川 正人 氏 (令和6年度会長、令和5・7年度副会長) 野木 和洋 氏 (令和4～7年度副会長)	12月2日	(公社)日本PTA全国協議会
東北地区社会教育委員連絡協議会	齋藤 恵二 氏 (川俣町) 八木沼 智恵子 氏 (須賀川市) 渡邊 壽夫 氏 (矢吹町) 星 朋子 氏 (喜多方市) 星 幸子 氏 (湯川村) 飯塚 宏 氏 (南相馬市)	10月30日	東北地区社会教育委員連絡協議会

令和8年度 福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
○「福島を生きる」講座と関連展示	○大ゴッホ展 夜のカフェテラス 2/21(土)～5/10(日)	○ムシできない虫たち 暮らしの中の人と虫 4/25(土)～6/21(日)	○郡山自然の家 みどりのオープンデー 5/17(日)
○「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示」	○福島アートアニュアル2026 6/2(火)～7/5(日)	○大恐竜展 新発見の壱頭竜類ザヴァケワレ 7/11(土)～9/23(水・祝)	○会津自然の家 里山解放デー 7月12日(日)
○「福島県歴史資料館移動展示」	○草間彌生 版画の世界 7/18(土)～9/23(水)	○安積疏水の挑戦 -郡山の未来を拓いた水路- 福島県成立150周年記念 10/10(土)～12/6(日)	○いわき海浜自然の家 春のオープンデー 5/24(日)
	○ごろごろまるまるネコづくし 10/10(土)～12/6(日)		
	○生誕120年 斎藤清 3/20(土)～5/9(日)		

編集後記

機関情報「社会教育」第346号のテーマは「地域でつながる家庭教育応援事業」としました。近年の家庭環境の多様化や地域コミュニティの変化などに伴い、子育ての悩みや不安を抱えた保護者の孤立化等、家庭教育上の課題が多く見られます。そうした状況において、県では、震災後の地域コミュニティの再生や家庭教育支援チームによる支援など、独自の施策を展開しているところであり、安心して子育てできる環境づくりや、保護者の学びの機会の保障など、社会総がかりでの対策に取り組んでいます。また、多種多様な家庭問題や保護者のニーズに応じて、学校・家庭・地域と行政や関係機関が情報を共有し、連携して取り組んでいくことが重要であると考えており、今後もより一層の連携強化を図るとともに、家庭教育を支援するための事業を充実させていくことができるよう取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、日々御活躍されている方々から、お忙しい中、第346号「社会教育」に御執筆をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層御活躍されることをお祈りいたします。



令和8年3月吉日発行
社会教育 No. 346
編集 社会教育課
発行 福島県教育委員会
福島市杉妻町 2-16